

1. プロジェクト名

教員養成カリキュラムの体系化・充実化の方策に関する調査研究

2. プロジェクトの担当者

◎遠藤孝夫、名越利幸、新妻二男、塚野弘明、藤井知弘、川口明子、名古屋恒彦、
田代高章、渡瀬典子、長澤由喜子、菊地洋一

3. 概要と目的

○岩手大学教育学部における教員養成を充実させ、質の高い教員養成を実現することが最終目的。この最終目的の実現のためには、4年間一貫性のある体系的な教員養成カリキュラムを構築することが不可欠である。

○そこで、本プロジェクトは、この教員養成カリキュラムの体系化・充実化に向けた方策の検討のための基礎資料を得ることを目的とする。

○より具体的には、本プロジェクトでは、教員養成カリキュラム改革に資する基礎資料を得るために、教員養成カリキュラムに関するアンケート調査の実施および先進的な他大学への訪問調査等を行う。

○本プロジェクトで得られた基礎資料は、教員養成カリキュラム開発推進委員会で検討され、教員養成カリキュラムの体系化・充実化の方策として具体化される。

4. 取組状況

<平成20年度>

(1) 教育学部学生へのアンケート調査の実施（平成21年1月～2月）

○対象・・・教員免許状取得希望の3年生と4年生

○回収率・・・45.0 %

回答者の総数 207人

内訳 3年生 110人 小・中コース 74、特別支援 6、生涯・芸文課程 30

4年生 97人 小・中コース 61、特別支援 9、生涯・芸文課程 27

(2) 岩手県内学校および指導主事へのアンケート調査の実施（平成21年2月～3月）

○対象・・・岩手県内の全ての小・中・高校・特別支援学校（小 420、中 193、高 74、特支 21）の管理職と本学部卒業生（各学校 4人まで）、県教委（1センター、10事務所含む）および 37市町村教委の指導主事各 1人

○回収率・・・学校＝ 83.2 %、教育委員会＝ 79.2 %

(3) 横浜国立大学への訪問調査（平成21年3月17日）

○訪問者・・・名越先生

○調査内容・・・教員として必要な資質・能力の指標づくり（横浜スタンダード）について

＜平成 21 年度＞

(1) 2つのアンケート調査結果の集計と分析作業

(2) 教員養成に関する研修会の企画・実施

○日時・・・平成 22 年 1 月 26 日 15 時～17 時 30 分

○内容

第一部 15 時～16 時 参加者＝約 40 人

教員養成カリキュラムに関するアンケート調査結果の報告と意見交換

第二部 16 時 15 分～17 時 30 分 講演と意見交換 参加者＝約 80 人

講師：東京学芸大学准教授 岩田康之先生

演題：教員養成政策・実践の課題と展望

5. プロジェクトの成果

(1) 横浜国立大学への訪問調査

○文部科学省の教員養成GPの採択を受けて、横浜市教育委員会・校長会と共同で、小学校教員として必要な資質・能力を、8つの観点・50項目に類型化し、4段階からなる評価基準＝横浜スタンダードを作成。

○スタンダードと関連させ、1年次から4年次まで毎週1回、拠点小学校における日常的・継続的な教育実習を行うため、新科目として「初等教育フィールドワーク研究」を導入。このため金曜日の午後は大学の授業は開講しない。

○「初等教育フィールドワーク研究」は選択科目であり、受講学生が当初の約 50 人から 30 人程度まで減少傾向にあること、この新しいシステムを教職課程の必修のシステムに移行できるのかどうか、この点が課題であると考えられる。

(2) 2つのアンケート調査結果の抜粋（詳細は報告書を参照願いたい）

1) 教育学部学生から見た教員養成カリキュラムの現状と課題

①教員志望意識の変化

	是非になりたい	できればになりたい	計
3 年生	42.7%	16.4%	59.1 %
小・中	47.3	17.6	64.9
特支	66.7	33.3	100
生・芸	26.7	10.0	36.7
4 年生	38.5%	8.3%	46.9%
小・中	45.9	4.9	50.8
特支	33.3	22.2	55.5
生・芸	23.1	11.5	34.6

＜考察＞

○3年生と比べ4年生は教員志望意識が下落（59.1%から 46.9 %へと 12.2 ポイントの下落）。特に小・中コース（14.1 ポイント）と特別支援コース（44.5 ポイント）で顕著な下落となっている。調査時点（1～2月）や経年変化を確認したものではない点も斟酌すべきであるが、如何に学生たちの教職志望意識を高く維持していくのが大きな課題となる。

② 現行の教員養成カリキュラムの有効度

5段階評価（5＝有効である ← → 1＝有効ではない）

一般教養	教職専門	教科専門	教科教育	教育実習	サブコース	4年間全体
3.51	4.13	4.20	4.12	4.80	4.11	3.73

< 考察 >

○教員として必要な資質・能力を身に付ける観点から、現行のカリキュラムの有効度を調べた質問であるが、各項目に関しては、「一般教養」を除けば、ほぼ4以上の評価がなされており、概ね有効であるとの認識が示されたと言える。特に「教育実習」（観察実習を含めて）の有効度が突出していることから、今後も教育実習の充実・強化を図っていくことが重要と言える。

○しかし、細かく見れば、「一般教養」（共通教育科目）の有効度が低いこと、またそれ以外の項目の有効度が4を越しているものの、4年間を通した教員養成カリキュラム全体の有効度は3.73と低い評価となっている。このことは、教育実習や教科専門といった個々の項目は有効であったとしても、個々の項目の取組の関連づけのなさという問題点が示唆されており、4年間の教員養成カリキュラム全体の体系化・構造化に向けた課題が示されたものと考えられる。

③ 教科教育法の授業について

○改善して欲しいと思う科目の有無

あった＝107人、なかった＝78人、無回答＝23人

○改善してほしい点についての自由記述から 3つの意見に類型化

- i) 担当教員の授業姿勢や授業方法に関する不満や改善要望 件数＝約51件
- ii) 理論と実践の融合、学校現場と関連づけた授業内容への要望 件数＝約36件
- iii) 教科教育法の趣旨・目的に即した内容や構成への改善要望 件数＝約12件

④ 教員養成カリキュラム全体についての満足度

5段階評価（5＝満足 ← → 1＝満足していない）

科目間連携	カリキュラム構成	履修指導	カリキュラム全体
2.93	3.19	2.97	3.19

< 考察 >

○全体的に、カリキュラムに対する満足度は低い結果となった。特に、「科目間連携」（指導内容の調整・関連性）は2.93と最も低く、次いで「履修指導」も2.97と、評価段階3、つまり「どちらともいえない」を下回り、評価段階2「あまり満足していない」に近いという結果となっている。また「カリキュラム全体」に対する満足度も3.19という厳しい結果となっている。上記の（3）でも指摘したように、個々の授業科目を教員養成という最終的目的の実現に向けてどのように関連づけ、構造化（体系化）していくか、そして学生への履修指導（教職指導）を如何に充実させていくか、この点に大きな検討課題があると言える。

⑤ 教員養成カリキュラムに関する自由記述（要望や意見）

意見件数＝96件 5つに類型化（典型的意見のみ抜粋）

- i) カリキュラムの全体構造の改善と履修指導の充実への要望 (39 件)
- ・ 1 年生のときは教職に全く関係のない講義ばかりで、チューターにも行けず、教員になりたいという意欲が低下してしまった。構成・内容ともに、教員を育てるという意識をもっと持ってほしい。
- ii) 科目配置や履修方法等に関する不平や改善要望 (19 件)
- ・ サブコースの授業と教職専門科目が重なっていて履修しにくいものがある。小学生を対象とした外国語教育を踏まえた外国語教育法の科目を開設してほしい。
 - ・ 講義名と内容が相関関係にないものがある。また、シラバスが表示されず、内容のわからない科目もあり、履修の際に迷ってしまう。
- iii) 教育現場やび実践との関連を重視したカリキュラムへの改善要望 (16 件)
- ・ 大学は自分で学ぶ場所ではあるが、教育となると子どもあつてのもので、「学校」という場にかかわってこそその教員養成課程だと思う。教科教育科目で、小学校の教育へ生かせるものがどれだけあったかと思うことがある。もう少し現場でどんなことを教えているかや、その教えたいことをなぜ教えるか、どのような指導法があるかなどを学ばれたかった。教科専門と教科教育が同じような役割になっているように思う。
- iv) 子どもと触れあう機会や子ども理解を深める機会を求める意見 (6 件)
- ・ 1、2 年生では子どもと接する機会が少なく、その状態で教育実習に臨むのは不安をあおってしまうと思う。結果として実習後に教師をあきらめてしまう人もいる。本来なら自主的にスクールトライアルなどに参加すればよいが、重視している学生はあまり多くないので、教育実習前の 1、2 年生の間に一週間ほど学級に配属させてもらい、授業の参観や朝から放課後まで子どもと過ごす経験ができる講義をつくってもいいと思う。
- v) 学部教員への不平や要望等 (16 件)
- ・ 自分の知識自慢や思い出話ではなく、実際に現場で必要なことや現状を教えてほしい。もっと現場にいた先生を増やしてほしい。
 - ・ 教科間や、先生方の授業への目的・目標意識に大きく隔たりがあるように思う。ある先生は、教員志望を前提として現状と絡めた授業内容であったり、ある先生はその専門性を重視したものであったり。

2) 岩手県内の学校の教員（本学部卒業生）から見た教員養成カリキュラムの現状と課題

①教育学部のカリキュラムで今後充実すべき項目は何か

5 段階評価 (5 = 重要である ← → 1 = 重要でない)

①一般教養	
・ 外国語	3.93
・ 現代的教育課題	4.09
・ 基礎的教養	4.13
小計	4.05
②教職教養	
・ 教育の基礎理論	4.03
・ 教育課程・教育方法	4.01
・ 生徒指導・学級経営	4.53
・ カウンセリング	4.43

	小計 4.25
③学習指導に関する教育	
・専門分野の教育	4.48
・専門分野と学校での指導内容の関係	4.08
・学習指導要領	4.02
・教科教育法	4.62
・指導案の作成方法	4.00
・模擬授業の実施と方法	4.49
	小計 4.28
④教育実習	
・教育実習（本実習）	4.65
・教育現場での体験	4.49
	小計 4.57

<考察>

○一般教養が若干低いことを除けば、教職教養、学習指導に関する教育、教育実習の領域に関しては、いずれもその充実の必要性が高いという認識結果が示されている。

○とりわけ、「教育実習（本実習）」（4.65）、「生徒指導・学級経営」（4.53）、「教育現場での体験」（4.49）、「模擬授業の実施と方法」（4.49）、「カウンセリング」（4.43）の項目において、極めて高い充実の必要性が求められている。

②教員養成カリキュラムに関する要望・意見等 意見件数 247 件を 7 つに類型化

i) 学校現場体験の充実、実践重視のカリキュラムへの要望 （62 件）

・とにかく実際に学校の様子や授業を見る機会がある方が、教職に就いたときに役立つと思います。また、教員をしている方の話を聞くことも今思うと教職に就いたときに有益でした。理論を踏まえた上で、実際の中を見、また理論に結びつけて行くような学びは、今でも役に立ったと感じています。

ii) 人間・社会人としての基礎的能力やコミュニケーション能力の強化要望 （52 件）

・基本的な社会人としての心構えや、耐性などがあれば現場に出てすぐに様々吸収できると思う。現実にはこのようなことに欠けているため、自分の仕事から逃げたり、投げ出す人がいる。その為周囲に迷惑をかけていることを気づかない者もいる。そこで、このような教育現場に限らず、職業として取り組む意識を高めることも取り入れてはどうでしょうか。

iii) 学校教育に関する専門的知識・能力の充実への要望 （43 件）

・中学校の場合、教育指導が大切なのは、言うまでもありませんが、学級経営能力が、とても重要な要素です。（若手は担任をもたされます）人と人とのつながりや姿勢など、生徒、親、同僚との関係を築ける力は、どうしても必須と思います。

iv) 特別支援教育、保護者との関係づくり等の現代的教育課題への対応 （38 件）

・保護者とのコミュニケーションから逃れるわけにはいきません。若い教師を見ていると謙虚さを備えた（自己をわきまえた）者と、横柄な者の 2 つに分けられる。理論もさることながら真の意味で相手や周囲の心情に敏感でそれにふさわしい行動をとれる人間を育ててほしい。

v) 教員採用試験対策の充実 （14 件）

・大学で学んだことと教員採用試験の内容が多少リンクするようだとよいと思う。他の大学は採用試験対策のカリキュラムが組まれていると聞いたことがある。まずは

す狭き門になりつつある今、その対応を大学の講義等でもしてはどうだろうか（全員採用試験を受けるわけではないと思うが・・・）

- vi) パソコン等の情報機器の活用能力、文書作成能力の充実 （11 件）
 - ・一通りの表計算ソフトの操作方法や成績処理の仕方など。評価の仕方についても色々な方法を身に付けさせたい。
- vii) 岩手大学および大学教員に対する意見や要望 （13 件）
 - ・学部の実習が、3 校体制になってから、実習生への指導に、学校間の差が大きくなってきたように思います。学部の学生の数も減少してきたのですから、体制を再度検討しても良いのではないのでしょうか？

3) 岩手県内の学校の管理職からの要望や意見 意見件数 122 件を 6 つに類型化

- i) 人間性、社会常識、コミュニケーション能力等の資質・能力の育成 （27 件）
 - ・専門的教育以上に、人間性、道徳性、教育に対する情熱や意欲を育てる指導をお願いしたい。単なる知識の詰め込みや、要領よく事をこなすだけでは、現場で通用しない。情熱に溢れる、たくましい精神力の人材が求められ、知的にのみ優秀な者は役立たない。
- ii) 学校経営、保護者等との関係づくりに関する資質・能力の育成 （15 件）
 - ・若い教員だけでなく、中堅の教員についても、学級づくりができない教員が多い。本調査の「学級経営力」の項目がそれにあたると思うが、そのために、学級規律や生活習慣などが確立されず、学習活動に集中できなかったり、効率が悪かったりすることで、成果が上がらないという例が結構多い。
- iii) 教育の理論と実践を結合させた教員養成への改革要望 （11 件）
 - ・始業式から教室に立って少しでも自信を持って指導できる力を大学でつけるべきである。理論と現場の実践のつながりを強く意識した指導が望まれる。
- iv) 特別支援教育に関する知識・能力の育成 （7 件）
 - ・特別支援教育については、今後どの教員にとっても重要である。（普通学級に A D H D 等、様々な子が在籍しているので）
- v) 教師としての使命感・責任感の育成 （6 件）
 - ・教育、教師をビジネス的に考えている者については、この職業は全くむかない。心と心が子どもを人を育てるもので、” 熱いおもい ” 教育に対する情熱がほしい。
- vi) 適切な話し方や言語活動に関する能力の育成 （3 件）
 - ・質問に対する回答として妥当かどうかは別にして、通信票や各種通親類での日本語の使い方が非常に気になる。正しい日本語の運用について指導が必要である。

6. おわりに

以上のように、2 年間のプロジェクトの活動を通じて、岩手大学教育学部の教員養成カリキュラムの現状と課題及び今後の改革の方向性に関する貴重な基礎資料を得ることができた。今後は、この基礎資料を生かして、本学部の教員養成カリキュラムを改革し、質の高い教員養成を実現していくという大きな課題に取り組むことが必要となる。

1. プロジェクト名

カンファレンスの導入プログラムの開発

2. プロジェクト担当

◎塚野弘明、立花正男、藤井知弘、名越利幸（学部）

高橋長兵、近藤澄江（附属小）

3. 概要

カンファレンスとは、実践事例を現職教員や実務家教員、学部教員、学生などの多様な参加者によって協同で検討することを通して意味理解を深め、実践的指導力を養う学習方法の一つである。平成 21 年度より学部では小学校実践研究が新設され、講義内容としてカンファレンスや模擬授業が予定されている。また、大学院学校教育実践専攻の新設科目として「実践研究・授業分析Ⅰ、Ⅱ」が始まるが、この講義においてもカンファレンスによる実践的指導力の育成が目論まれている。本プロジェクトでは、こうした学部、大学院講義におけるカンファレンス導入のプログラム開発についての研究を行う。

4. 目的

学部講義における 3 コマの講義内容にカンファレンスを導入するためのプログラム開発、及び、大学院講義において 5 コマの講義内容にカンファレンスを導入するためのプログラム開発が本プロジェクトの目的である。

1. 学部・大学院の講義へのカンファレンスの導入のあり方を研究する
2. 講義 3 コマないしは 5 コマでカンファレンスを実施する
3. 事後カンファレンスでワークショップを導入する

5. 実施計画・方法

【平成 20 年度】

教育実習生の算数の授業を対象にしたカンファレンスを実施し、学部授業（小学校実践研究）の 3 コマの中に導入するためのプログラムを開発する。

①事前指導

対象となる教育実習生の指導案などの資料の解説、授業ビデオの視聴、授業カンファレンスの目的や実施方法、議論する検討課題などの指導

②授業カンファレンス

事前に設定した検討課題に沿って、実習生、実習校指導教員、学部教員、実務家教員の 4 名でカンファレンスを実施し、受講学生はそれを参観する。

③事後指導

授業カンファレンスを参観した学生たちがワークショップを行うことによって実践の理解を深める。謝金は、カンファレンスに参加の実務家教員に支給する。

【平成 21 年度】

大学院の講義においてカンファレンスを導入した授業を実施し、その評価を行う。

実践演習・授業分析Ⅰ

英語科、国語科、社会科のカンファレンスを 5 コマずつ、計 15 コマで実施する。

実践演習・授業分析Ⅱ

算数科、数学科、理科のカンファレンスを 5 コマずつ、計 15 コマで実施する。

6. 取組状況

【平成 20 年度の取り組み】

（1）教育実習生の授業を題材としたカンファレンス

1) 実施計画

事前準備：実践事例の選定と録画、カンファレンス参加者の決定、検討課題の決定（コーディネーター）、参加者への資料配布

実践事例：平成 20 年 9 月 2 日に附属小学校 6 年しらかば組で行われた教育実習研究授業。

単元：「分数のかけ算とわり算を考えよう」

カンファレンス参加者：

授業者（酒井晴香 小学校教育コース3年）

実習校指導教員（菊池一章：附属小）

学部教員・コーディネーター（立花正男）

実務家教員（金野治：盛岡市教委）

認知心理学受講の学部学生 25 名

カンファレンス検討課題：

1. 立式の指導について
2. 計算の仕方を考えるとどのようにすることか
3. 計算の仕方を考える際に、図をどのように活用するのか。
4. 計算指導における計算練習の在り方

カンファレンス日程

事前カンファレンス：平成 20 年 1 月 19 日 7・8 校時

内容：認知心理学受講生にカンファレンスの対象となる授業のビデオを見せ、教科書、指導書、指導案、板書計画などについて事前学習を行う。

カンファレンス：平成 20 年 1 月 26 日 7・8 校時

内容：検討課題について授業ビデオを見ながら参加者が議論する。学生は参観し、直後に学生アンケートを実施する。

事後カンファレンス：平成 20 年 2 月 2 日 7・8 校時

内容：カンファレンスの記録、各資料等に基づいて参加学生が 5 グループに分かれてワークショップを行う。事後アンケートを実施する

2) 結果

検討課題における議論

1. 立式の指導

- ・ $4/5 \times 2/3$ という立式は、「かけると答えが増える」「わると減る」と理解している子どもには難しい。
- ・ 分数の場合は、小数と同様に「かけ算をすると答えが減る」場合がある。
- ・ 「基準量×割合」の理解が必要になる

2. 計算の仕方を考えると

- ・ $4/5 \times 2/3$ の見通しを持つとは、既習の分数×整数にどうやって持っていくか（ $\times 3$ 、 $\div 3$ ）と、面積図を使って考えることが考えられる
- ・ 授業の流れでは、前者についての疑問が子どもから出されたが、十分取り上げずに、唐突に面積図を出して考えさせた。この流れに再考が必要。

3. 計算の仕方を考える際に図をどのように活用するのか

- ・ $4/5 \times 2/3$ の計算と図の操作の仕方を関係づけて指導する。
- ・ 「分母の 3 で割る」「分子をかける」「 5×3 は、何を 1 としているのか」などを抑えながら指導する

4. 計算指導における計算練習の在り方

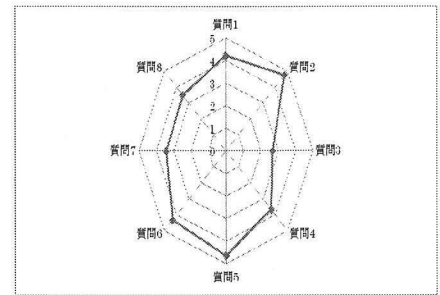
- ・ 時間のない中で効率よく練習させる。書かせながら答え合わせなど
- ・ 計算ミスを共有することも計算練習のあり方として大切
- ・ ノートの書き方を指導しないと記入ミスにつながる
- ・ 考え方の繰り返し練習も必要



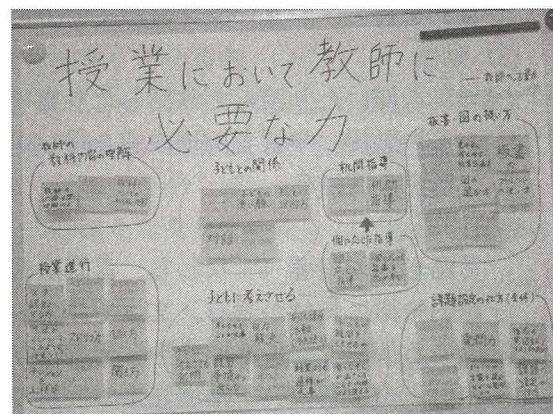
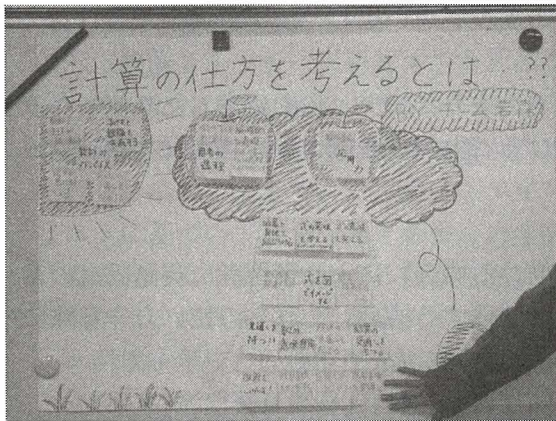
カンファレンスの様子

カンファレンス直後アンケート

1. カンファレンスの議論はよく理解できた
2. カンファレンスでは授業の改善すべき点をよく検討していた
3. もっと多くの検討課題を議論してほしかった
4. カンファレンスは教育実習での授業研究会とは異なる
5. カンファレンスは実践的指導力をつけるために役立つ
6. 学部のカリキュラムにカンファレンスがあればよい
7. カンファレンスの時間は十分ではなかった
8. 参観学生も議論に加わるべきだ

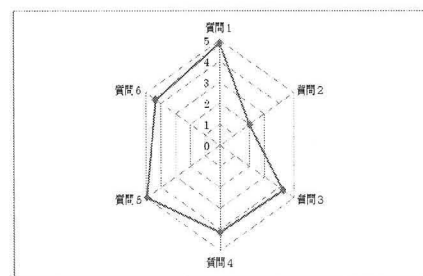


事後カンファレンスにおけるワークショップ結果（5事例中の2事例を例示）



事後カンファレンスアンケート

1. グループ議論は有意義だった
2. 議論はやりにくかった
3. 議論する時間は適当だった
4. 議論は活発に行われた
5. 他の学生の意見が聞けてよかった
6. 学生による議論を学部授業にもっと取り入れるべきだ



【平成20年度の取り組み】

実践演習・授業分析Ⅰ

責任担当教員（塚野）、教科担当教員（英語科：ホール、国語科：藤井、社会科：今野）受講者2名（1年次）、

【英語科】

授業スケジュール

1. 4月15日 全体スケジュールの説明と Characteristics of a Good Speaker の講義
 2. 4月22日 A Framework for Task-Based Learning の中から言語学習に必要な4つの条件についての講義
 3. 5月13日 現職中学校教員の授業の授業録画視聴と事前学習
 4. 5月20日 現職中学校教員を交えた授業カンファレンスの実施
1. Characteristics of a Good Speaker よい話者の特徴についての学習
- (1) Can use the appropriate language for a certain situation
場面に応じて適切な言語使用ができる
 - (2) Knows how to overcome communication problems

コミュニケーションの問題を解決する能力がある

(3) Can use the structures found in speech

スキミングによくある言語の構造が使える

(4) Has the ability to speak fluently and accurately

正確で流暢な英語を話すことができる

2. A Framework for Task-Based Learning

言語学習に必要な4つの条件について

(1) 言語に触れること

生きた話し言葉や書き言葉で構成された多量のしかも理解可能なインプットに触れること。

(2) 言語の使用

行為を遂げるために(すなわち、意味のやり取りのために)、言葉を使用すること。本当の目的を持ち、お互い支え合っただけで知っている表現を思い出して使える機会を設ける。

(3) 動機

言葉を聞いたり読んだり話したり書いたりする(つまりインプットを処理したり使ったりする)動機。学習者が達成感を得ながらやり遂げることができるようなコミュニケーション活動を設ける。

(4) 指導

言語形式の指導(すなわち、言語形式に注意を向ける機会)により学習者に英語固有の言語的特徴に気付かせる。文法や語彙のパターンを整理する機会、それらの使い方や意味に関する仮説を立てる機会を学習者に与えてくれる。

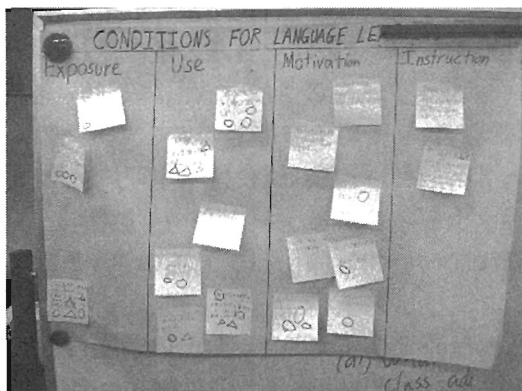
3. 盛岡市立玉山中学校 千葉進先生の授業の視聴と事前学習

【本時の展開】より

1. 挨拶と Warm up、2. 学習課題「自分の大切なものを英語で友だちに紹介しよう」、3. 新出単語の確認本文の音読練習、4. 本文の内容確認、ネイティブスピーカーの VTR 視聴、5. 発表準備、6. 発表、7. まとめ・自己評価、8. 課題の確認と次時の予告

4. 授業のカンファレンス

Characteristics of a Good Speaker と言語学習に必要な4つの条件の観点からワークショップを行った。



考察: よい話者の特徴の2, 3については授業の課題と食い違う点があり評価が難しかったが、1, 4については十分に評価できる内容だった。言語学習の4つの条件については2が授業時間の制約から十分ではなかったが、その他の3つの観点については満足できる内容だった。

【国語科】

授業スケジュール

1. 5月27日 全体スケジュールの説明と日本の国語教育の問題点

2. 6月3日 PISA「読解リテラシー」を育てるための読みの学習と授業ビデオ視聴
3. 6月10日 現職小学校教員を交えた授業カンファレンスの実施
4. 6月17日 現職中学校教員を交えた授業カンファレンスの実施
5. 6月24日 総括：国語教育の方向性

1. 国語教育の問題点

学びをどう捉えるか。本当の学びは常に学ぶ者の側からの内なる問いかけの活動によって先導される。知識は一方的に与えたり、伝えたりできる代物ではなく、子どもは常に自らの内なる問いかけに基づき、外界の知識を自分の関心への答えとして受け止め、自ら新しい様相に作り変えて自分で一番扱いやすいモデルとして変化させていく。知識を学ぶとは子どもが自らの世界を作り出すこと。学びは意味と人との関係の編み直しである。その中で自己自身の解体や再構築の連続性がある。

2. PISA「読解リテラシー」を育てるための読みの学習と授業ビデオ視聴

PISAの求める「読解リテラシー」は自らの目標を達成させ、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力である。それを目指して変えていく方向は①テキストを理解・評価しながら読む力を高めること。②テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること。③様々な文章や資料を読む機会や自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること。

3. 現職小学校教員を交えた授業カンファレンスの実施

附属小学校、近藤澄江先生の小学4年「やさしいゆきだるま」の授業を視聴し、「授業ルーティン」の形成を目標とした授業のあり方についてカンファレンスを実施した。重点とされた授業ルーティンとしては、「次時の学習の準備をしている」「分からないことを聞き返す」「友達の考えのよさを相手に伝える」「学び合いを成立させる」「課題に向かって自分で解決する」「自分で課題を作り、振り返る」である。カンファレンスでは「学び方を学ぶ」授業、従来のテキスト中心の一斉授業ではなく対話を中心にした授業、テキストの読解の指導と聞き方、対話の指導の二つの道筋がある、中国の国語教育は余りに教材中心、学び合い・合意形成を育成する授業などについて議論が展開した。

4. 現職中学校教員を交えた授業カンファレンスの実施

花巻市立大迫中学校、及川由美先生の中学2年、詩の授業「詩の表現からイメージをふくらまそう」を視聴し、単元学習についてカンファレンスを実施した。この授業は、谷川俊太郎の「春」の詩三篇をテキストに、目標として①詩の形式が分類できる、②感情、気分、貴著二の詩的な表現の技を知る、③詩の表現から自分なりのイメージを広げ、想像しながら詩を読み味わう、を設定した。そして、メンタルマッピングによる春のイメージ化、教科書以外の「春」の詩の学習、生徒自身による春の詩の収集などの学習、および話し合いを通して目標に取り組んでいる。カンファレンスでは、教科書単元を発展させる学習者の実態に則した単元の構成方法とその有効性、イメージの視覚化としてのマッピングとテキストの読みによるイメージの変容などが議論された。

5. 総括：国語教育の方向性

国語教育の方向性として、NHKビデオ、大村はま「教えるということ」およびカンファレンスの議論を踏まえて、単元学習とは何かについて議論を行った。これまでの教師は、「学び」を「教え」の結果と捉え、意味を考えない、スピードや効率性、答えを出すことを重視する学習観に捕われてきた。単元とは自己の投入による自己との関わりにおいて学習することであり、行為としての読書である。単元設定の必然性は、言葉から子どもを離れさせないこと、学習者に合わせた「加工」にある。単元への興味は内容への興味であり、読解力、聞く力、話す力、考える力は、内容を分かりたい、自己との関わりを考えた「結果」として身につくのであり、

それを目標にして単元を学習するのではない。

【社会科】

授業スケジュール

1. 7月1日 授業を分析するための前提—教師は授業をどうつくるか（1）
2. 7月8日 授業を分析するための前提—教師は授業をどうつくるか（2）
3. 7月15日 授業を分析するための前提—教師は授業をどうつくるか（3）
4. 7月22日 授業ビデオの視聴と説明
5. 7月29日 現職中学校教員を交えたカンファレンス

1. 授業を分析するための前提—教師は授業をどうつくるか（1）

英語、国語がスキルを育てる方法教科なのに対して、社会科は、資料などの読み取り方など方法教科の側面もあるが、基本的に内容教科である。すなわち内容をどう構成していくかが問題となる。社会科の授業をつくる第1ステップとして①配布したプリントを読む、②教科書の該当部分について、何を用いて（図・グラフ、資料、イラスト他）、どのように深めるか。③教科書の文章で分かりにくいところ、不十分なところはどこか。第2ステップとして④どれが効果的かまとめていく。限界のある教科書のスペースを考えて絞っていく、を踏まえて計画する。例として、中学校教科書「わたしたちの中学社会 歴史的分野『東アジアが結びつく』」を取り上げ、資料として学習指導要領の内容、高等学校日本史教科書、「明朝の解禁政策と日本、そして東南アジア」（歴史地理教育）、を参照しながら、近代国家の「脱亜入欧」「ヨーロッパ中心史観」とは異なる東アジア世界の国際秩序の観点から史実を解説した。

2. 授業を分析するための前提—教師は授業をどうつくるか（2）

カンファレンスの授業実践事例となる「自由民権運動」について、中学校教科書、資料として自由民権運動の変遷、自由民権運動関連年表、「民選議員設立建白書」（1874 板垣退助）などを用いて板垣退助らの中央の運動の変遷と共に、地方における運動について民権と憲法、私擬憲法草案および私擬憲法草案一覧などの資料によって理解を進めた。

3. 授業を分析するための前提—教師は授業をどうつくるか（3）

地方における自由民権運動の一例として、郷土岩手の運動家である求我社の鈴木舎定、小田為綱などを取り上げ、鈴木舎定の「国会手引草」などを参照しながら、地方の運動が二十代から四十代までの士族ではない平民の民権家であったこと、その特色が中央の運動と同様の憲法や政治的民権の要求に加えて、地方の困窮状況を踏まえた産業振興や経済問題にまで及んでいることを学習した。

4. 授業ビデオの視聴と説明

附属中学校、菊池勉先生の「明治維新 ～岩手の自由民権運動～」の授業について指導案、資料、授業ビデオ視聴などを行い解説した。この授業は、学習指導要領にある「国家・社会及び文化の発展や人々の生活向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる」を踏まえ、岩手で行われた自由民権運動の特色について全国での運動と比較しながら考えさせ、その意義を理解させることを目標として計画された。そして、「民選議員設立建白書」（1874 板垣退助）や鈴木舎定の「国会手引草」の資料からその相違点を確認するとともに、岩手県他の資料、百姓一揆の発生件数や低就学率などの資料から岩手の運動の背景を考えさせている。この授業では、鈴木舎定の恩師であり、地域に根ざした岩手の民権運動の特色をより明確に示している小田為綱の「東奥総合開発案」を取り上げておらず、授業における人物選定に問題があるとの指摘があった。

5. 現職中学校教員を交えたカンファレンス

附属中学校、菊池勉先生を交えて授業ビデオを振り返りながらカンファレンスを実施した。授業は、①岩手県の自由民権運動の確認、②「岩手の自由民権運動では何を要求したか」という

テーマに対する予想、③予想の発表、④文書資料から自由民権運動の要求についての確認を行う、⑤岩手県での運動と中央との取組の違いを確認、⑥岩手県に関する資料の読み取りから運動の背景を知る、⑦まとめ、という手順で展開した。カンファレンスでは、岩手の地域的特色を反映した自由民権運動を扱うには、鈴木舎定よりも小田為綱の方がより適切であり、資料としては岩手大学教授、森嘉兵衛著「岩手県の歴史」における小田為綱の東奥総合開発案が重要であるとの議論があった。

7. 考察

20年度に取り組んだ3コマの授業カンファレンスでは、新たに事後カンファレンスでワークショップ型のグループ討議を導入することで、当初のカリキュラム開発の目的は達成できたと考えられる。来年度から実施される小学校実践研究の実態に即し、教科の違いに左右されないカリキュラムの提案ができたのではないかとと思われる。

一方、大学院における各教科5コマで実施したカンファレンスを導入した授業では、授業づくりの解説により多くの時間を費やせたこともあり、各教科の理論的で高度な教材研究と授業づくりのプロセスについての解説に特徴が見られた。したがって、教材研究のレベルとしては中学校から高等学校ではあったものの、授業実践という意味では小学校にも通じる議論ができたと考えられる。

カンファレンスに参加した学生の評価は極めて高く、「これこそ受けたかった授業だ」という自由記述の感想がそのことをよく示している。

8. 今後の展開

来年度の小学校実践研究においてこうした授業カンファレンスを導入し、その成果と課題を洗い出すことが課題となる。大学院の講義においては、本年度実施予定だった実践演習・授業分析Ⅱ（算数、数学、理科）が、受講者がいないため開設できなかった。来年度の開設に期待したい。特に、この講義では算数と数学を分けて計画しているため、校種によるカンファレンスのあり方の違いについての有用な知見が得られるのではないかとと思われる。

小学校実践研究、実践演習・授業分析Ⅰ・Ⅱにおいてはいずれも教科教育学教員が担当している。これを学部全体に広げていくためには、カンファレンスの参加者に教科専門の教員や教職担当教員が加わるのが重要である。

首都圏観察実習等の実施による教員就職率アップ・プロジェクト

千葉観察実習の効果(1)

代表者 大河原清 ■ 共同研究者 伊藤一彦

1 研究目的

首都圏の一つ、千葉県教育庁の協力を得て、千葉観察実習を実施することで、参加学生の首都圏に対する教員採用試験受験不安を解消できるかどうかを明らかにする。標記プロジェクトの狙いの前段部分の検証に当る。この結果が「千葉観察実習の効果(1)」の大部分を占める。

教員就職率アップのいわゆる受験者数とその合否についての検証については、本論末尾の「教員採用試験合格率から見た千葉県観察実習の効果(2)」において述べる。

2 観察実習の実施方法

ルートおよび日程(資料:地図(p. 95 参照)と日程(p. 96 参照))

- ・ 地図:「5 教育事務所と 1 政令指定都市」

3 参加学生(被調査者) 教育学部 3 年次生 22 名

4 研究方法

一つはアンケート調査用紙を、二つは参加学生作成の報告書による。一つ目のアンケート調査用紙は同じ質問項目によるものを、バスの乗車開始時の事前用と千葉から岩手大学に戻る際の事後調査用として実施した。二つ目の報告書は、事前調査時に「帰って来た後には、報告書の提出があること」を予め知らせた。報告事項は、訪問先の日程表を示すと共に、その順序に沿ってあらかじめ項目を指定しておいた。たとえば、「往路のバス乗車をして」や「成田小を見学して」などであった。

5 参加学生の千葉県受験の意志

事前事後調査結果を見る上で、参加学生の千葉県教員採用試験についての受験意志は重要となる。事前・事後調査用紙の質問項目 Q23 でそれを調べることになる。

Q23 「現時点で千葉県の教員採用試験を受験する意志がありますか」

- ア 受験する意志がある(事前 13 名 ⇒ 事後 19 名)
- イ 考慮中である (事前 7 名 ⇒ 事後 3 名)
- ウ 受験する意志が無い(事前 2 名 ⇒ 事後 0 名)

調査結果から受験する意志のある者が 13 名から 19 名へと 6 名増加している。考慮中の者は 7 名から 3 名に、さらに受験する意志が無い者も 2 名から 0 名に減少している。

6 事前と事後において顕著な差の見られた項目

事前調査と事後調査について、単純な平均値の差を、マイナス項目については差の絶対値を取ることでソートした結果を示したものが表 1(p.99)である。対応のある差の両側検定結果を表 1 の右端に示す。被調査者数 22 名で、調査項目数は 21 個である。これらのうち、1%水準で差が認められる項目数は 13 個、5%水準で差が認められる項目数は 1 個、差が認められない項目数は 7 個であった。

単純な差の大きい方からそれらを列挙すると、次の通りとなる。

「20 千葉県を身近に感じた」

「6 千葉県の子供たちに親近感を抱いた」

「4 千葉県の教員になることに不安が無くなった」

「16 千葉の子どもたちは岩手の子どもたちと同じだった」

「7 岩手県との違いを感じない」

「3 千葉県の教員になってもやっていける自信を持った」

「14 先輩達に話を聞いて、千葉に行ってもいいかなと思った」

「5 千葉県は盛岡から遠いと感じない」

「13 先輩や管理職のOBに会い不安が減った」

「15 千葉県で教員になりたい」

「21 千葉県教育委員会の先生にお世話になった」

「8 後輩にもこのような形での首都圏等の観察実習を勧めたい」

「1 参加して良かった」

「11 この企画は大変良かった」

以上が両側検定結果、統計的に有意差のあった項目である。

なお事後調査の各項目の平均値の高い方から低い方にソートした結果から、平均値が 4 以上について上げると、1%水準で差が認められる項目は「1 参加して良かった」を筆頭に、「21 千葉県教育委員会の先生にお世話になった」が、次いで「11 この企画は大変良かった」「14 先輩達に話を聞いて、千葉に行ってもいいかなと思った」「13 先輩や管理職のOBに会い不安が減った」「6 千葉県の子供たちに親近感を抱いた」「20 千葉県を身近に感じた」「3 千葉県の教員になってもやっていける自信を持った」「15 千葉県で教員になりたい」の順になっている。

一方、「2 千葉県の地域について得るものがあった」と「9 先輩の話は役立った」の 2 つの項目に検定結果から差が認められなかったのは、事前調査の段階からその平均値がそれぞれ $m=4.818$, $m=4.773$ と高く、事後調査ではそれぞれ $m=4.91$, $m=4.91$ と差が生じにくかったためである。いわゆる天井効果によるものである。これらの 2 項目は、その意味の下位項目において差が生じていることから、効果があったものと解釈できる。

表1において有意差の認められない項目は、上記2項目の他に、「17 千葉で教員になるなら、両親を千葉によびたい」「12 故郷を離れるのは不安ではない」「10 参加費用は安かった」「19 岩手県に合格すれば、岩手県に残りたい」「18 友達と一緒に千葉に来て教員になるなら、心強い」であった。

「10 参加費用は安かった」については、学生の経済力環境によって違いがあるように思われた。非常に高いと見る者、非常に安いと見る者がいた。ある学生はバス利用というよりも、新幹線の利用や、前日の夜行バスの利用を提案している。

7 参加目的と、その結果

事前調査用紙の Q22 では、「今回の観察実習に参加する目的は何ですか」を聞いている。事後調査では、同じ問いに対して、「今回の観察実習で、一番良かったことは何ですか」を聞いている。その結果、調査前後の変化は以下の通りであった。

ア	千葉県の学校を見学すること	・ ・ (22名	⇒	9名)
イ	千葉県の児童・生徒に接すること	(18名	⇒	12名)
ウ	千葉県の地域を観察すること	・ ・ (12名	⇒	4名)
エ	先輩の話を聞くこと	・ ・ ・ ・ ・ (12名	⇒	9名)
オ	その他	・ ・ ・ ・ ・ (2名	⇒	0名)

学校見学の目的のもと、児童・生徒と接することができたことが一番の成果といえる。併せて学校の見学と先輩の話を聞くことが印象に残っていた。これは、単に授業を見て観察するばかりでなく、一緒に給食を食べたり、掃除をしたりする、など、児童・生徒と授業に加わったりと、参加学生が活動をしたことが役立ったことを示している。

8 報告書に見る観察実習の成果(一部分のみ提示する)

千葉を受けるといっても、なんとなく千葉がいいかな…という程度で、千葉のことをほとんど知らなかったのだが、千葉を一周して、様々な学校や子ども、先生方と触れ合い話すことで千葉に少し詳しくなったし、千葉県の教育に対するとてもいいイメージを持つことができた。実際に千葉に来て、子どもはどこでも一緒だということ、そして千葉で教職に就くことのよいところを実感することができたのが大きな収穫だった。参加できて本当によかったと感じる。

全体を通して本当に有意義な実習となりました。実際に千葉に行き、千葉の子ども達、先生方、教育委員会の方々と関わることができて、自分の視野を広げることができました。夏には千葉県を受験しようと思います。参加してよかったです。

参加してよかった。自分の関東圏に対しての固定観念を振り払うことができた。こどもはどここの地域でも一緒。先輩方のこの言葉がとても心に残っている。また同じ夢を目指す

仲間と私生活を共にしていろんな話もできたしまた同時に勉強しなければという焦りもうまれた。これからの意欲にも大きく繋がると思う。この実習は得るものばかりであった。

千葉県のことを少し知ることができて、児童・生徒と接することができて、千葉県教委の方々と顔見知りになれて・・・こんなにたくさんの経験を一度にできて本当にありがとうございました。千葉県の学校公開は一人でもいいけると思いますが、こんなに経験をさせてもらえることは絶対にありえません。本当にいい企画をしてくださり、同行してくださり、さらに学生がわくわくするようなお世話をしてくださいまして、ありがとうございました。

9 観察実習の問題点と改善策の提案

- 1) 参加学生に対する事前調査の必要性
- 2) 参加学生の事前指導の必要性
- 3) 観察実習学校での参与観察や、積極的授業参加の必要性
校種・学年・教科別参加形態の模索
- 4) 参加費用の問題
- 5) 教育庁担当者との緊密な連携の在り方
- 6) 千葉県の長所の広報活動

10 関連資料

参加学生の報告一覧(匿名により、各項目ごとに整理して、新たに報告書を作成して提示する)

11 参加学生一覧(新たに報告書を作成して提示する)

12 協力者

千葉県教育庁教職員課

岩手大学事務室

岩手大学教育後援会

学生センターキャリア支援課

(以上は、中間報告会で報告した内容である)

日程(時程)	内 容	備 考
<u>2/22(日)</u>		
7:00	岩手出発	
12:30	東北道 磐越道經由常磐道 食事休憩	
13:30	常磐道守谷SA到着 首都高環状線～湾岸線～(車窓より葛南・千葉市・市原市・君津・安房地区の紹介) ～市原SAにて休憩～君津IC～ 房総スカイライン	・千葉県[小熊]バスへ同乗 ・千葉県の紹介 ※配布物(千葉県観光マップ, 日程表)
15:00		
16:00		
16:30	鴨川青年の家 到着	※配布物(施設概要・清掃分担)
17:30	宿泊者説明会	・岩手大出身先輩教員の参加
18:00	夕食兼研修会	市原市より3名参加予定
18:30	夕食の後に研修会 (岩手大出身先輩教員との懇親会)	
	1 研修生から一言(自己紹介)	
	2 先輩からの講話	
	3 懇談	
19:30	終了 入浴	※男風呂は20:30～法政大野球部が利用するため, なるべくその前に入浴を済ませてください。 ペットボトルお茶等を配布
21:00	入浴終了	(千葉県担当301室)[池田・小熊]
22:00	就寝	引率者打合せ22:00～23:00 ※シーツとピローは分けて返却。
<u>2/23(月)</u>		※出発の支度をしてから食事 ⇒食事後すぐに出発となります。
6:30	起床	・勝浦小入り口で降車。バスは勝浦市役所駐車場へ。
7:30	朝食	
8:00	出発	
8:30	勝浦市立勝浦小学校到着 見学	
9:30	出発	
10:30	旅の駅九十九里岬(トイレ休憩)	
11:30	旭市立干潟小学校到着 見学 給食 清掃参加	・昼休みと清掃は児童と一緒に過ごします。動きやすい服装で参加してください。(上履きも持参してください。)
13:30	出発	・岩手大出身先輩教員の参加
13:45	旭市立干潟中学校到着 見学	7名参加予定
14:45	出発 多古町經由 車窓より成田空港の見学	
16:00	成田山新勝寺門前 扇屋到着 新勝寺周辺を散策	
18:50	岩手大OB教員との懇親会(扇屋)	
20:30	終了	
22:00	就寝	
<u>2/24(火)</u>		
6:30	起床	
7:00	食事	
8:20	出発	・成田小学校は扇屋の隣りです。
8:30	成田市立成田小学校到着 見学	
10:00	出発	
11:30	我孫子市立並木小学校到着・見学・給食	・初任の先生の英語の授業を参観します。
13:00	出発 取手～谷和原IC～常磐道～磐越道～東北道經由岩手へ	

千葉県観察実習アンケート調査用紙(事前調査用) 2009/2/22☆☆1/2

千葉県観察実習にご参加くださり、まことにありがとうございます。
今後の資料として活用させていただきます。ご協力をお願いいたします。

5段階の程度

5 ◎非常に良い(大変あてはまる) 4 ○良い(あてはまる) 3 どちらとも言えない
2 ×やや悪い(あまり当てはまらない) 1 ××非常に悪い(全然あてはまらない)

当てはまる番号を丸で囲ってください。それではよろしくお願いいたします。

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1 参加するのは良いことだ・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 千葉県の地域について得るものがあるはずだ・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 千葉県の教員になってもやっていけるのではないかと自信を持っている
・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 千葉県の教員になることに不安がある・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 千葉県は盛岡から遠いと感じる・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 千葉県の子供たちに親近感を抱いている・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 岩手県との違いを感じずる・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7-2 それはどのような点についてですか(記述
) | | | | | |
| 8 後輩にもこのような形での首都圏等の観察実習を勧めたい・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 先輩の話は役立つはずだ・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 参加費用は安い・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 このような企画は大変良い・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 故郷を離れるのは不安である・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 先輩や管理職のOBに会えば、不安が減る・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 先輩達に話を聞けば、千葉に行ってもいいかなと思う | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 千葉県で教員になりたい・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 千葉の子どもは岩手の子どもと大分違うだろう・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 千葉で教員になるなら、両親を千葉によびたい・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 友達と一緒に千葉に来て教員になるなら、心強い・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 岩手県に合格すれば、岩手県に残りたい・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 千葉県を身近に感じる・・・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 千葉県教員委員会の先生にお世話になる・・・・・・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

千葉県観察実習アンケート調査用紙(事前調査用) 2009/2/22☆☆2/2

22 今回の観察実習に参加する目的は何ですか(複数を丸で囲むことができます)

- ア 千葉県の学校を見学すること
- イ 千葉県の児童・生徒に接すること
- ウ 千葉県の地域を観察すること
- エ 先輩の話を聞くこと
- オ その他(

)

23 現時点で千葉県の教員採用試験を受験する意志がありますか

- ア 受験する意志がある
- イ 考慮中である
- ウ 受験する意志が無い

24 今回の観察実習で一番学びたい(知りたい)ことは何ですか

25 先輩との懇談会で聞きたいことは何ですか

26 要望等がありましたら、記入して下さい

氏名 _____ 所属科 _____

表1 事前事後の差の絶対値のソート結果(千葉観察実習)

	A	B	C	D	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
	事前 平均値	事前 分散	事前 分散	事前 分散	あと 平均値	あと 分散	あと 分散	あと 分散	あと 分散	あと 分散	対応のあるt検定結果					
1	2.318	1.17	1.17	1.17	4.64	0.58	0.58	0.58	0.58	2.31818	20千葉県を身近に感じた	**				
2	2.773	1.07	1.07	1.07	4.68	0.57	0.57	0.57	0.57	2.31818	6千葉県の子供たちに親近感を抱いた	**				
3	4.045	1.13	1.13	1.13	2.23	1.07	1.07	1.07	1.07	1.90909	4千葉県の教員になることに不安が無くなった	**				
4	3.136	1.04	1.04	1.04	1.59	0.59	0.59	0.59	0.59	1.81818	16千葉の子どもは岩手の子どもと同じだった	**				
5	3.864	1.08	1.08	1.08	2.52	1.21	1.21	1.21	1.21	1.54545	7岩手県との違いを感じない	**				
6	2.727	1.2	1.2	1.2	4.05	0.9	0.9	0.9	0.9	1.33983	3千葉県の子どもは岩手の子どもと同じだった	**				
7	3.591	0.91	0.91	0.91	4.86	0.35	0.35	0.35	0.35	1.31818	13千葉県の子どもは岩手の子どもと同じだった	**				
8	4.091	1.15	1.15	1.15	2.82	1.22	1.22	1.22	1.22	1.27273	14先達達に話を聞いて、千葉に行ってもいいかなと思っ	**				
9	3.682	0.99	0.99	0.99	4.82	0.66	0.66	0.66	0.66	1.27273	5千葉県は盛岡から遠いと感じない	**				
10	3.182	1.01	1.01	1.01	4.05	0.79	0.79	0.79	0.79	1.13636	13先達や管理職のOBに会い不安が減った	**				
11	4.318	0.84	0.84	0.84	4.95	0.21	0.21	0.21	0.21	0.86364	15千葉県で教員になりたい	**				
12	4.273	0.83	0.83	0.83	4.82	0.39	0.39	0.39	0.39	0.63636	21千葉県教員委員会の先生にお世話になった	**				
13	4.545	0.6	0.6	0.6	5	0	0	0	0	0.54545	8後輩にもこのような形での首都圏等の観察実習を勧めた	*				
14	4.591	0.5	0.5	0.5	1.77	1.11	1.11	1.11	1.11	0.45455	1参加して良かった	**				
15	1.455	0.96	0.96	0.96	4.91	0.29	0.29	0.29	0.29	0.31818	11この企画は大変良かった	**				
16	3.273	1.61	1.61	1.61	3	1.31	1.31	1.31	1.31	0.31818	17千葉で教員になるなら、両親を千葉によびたい	non				
17	3.909	1.23	1.23	1.23	4.18	1.1	1.1	1.1	1.1	0.31818	12故郷を離れるのは不安ではない	non				
18	3.818	1.62	1.62	1.62	3.64	1.5	1.5	1.5	1.5	0.27273	10参加費用は安かった	non				
19	4.182	0.66	0.66	0.66	4.36	0.95	0.95	0.95	0.95	0.18182	19岩手県に合格すれば、岩手県に残りたい	non				
20	4.773	0.43	0.43	0.43	4.91	0.29	0.29	0.29	0.29	0.18182	18友達と一緒に千葉に来て教員になるなら、心強い	non				
21	4.818	0.39	0.39	0.39	4.91	0.29	0.29	0.29	0.29	0.13636	9先達の話は役立った	non				
22					4.91	0.29	0.29	0.29	0.29	0.09091	2千葉県の地域について得るものがあつた	non				
23																
24																

***; p<.001, **; p<.005, non:有意差無し

教員採用試験合格率から見た千葉県観察実習の効果(2)

1 研究目的

以下は、千葉県観察実習への参加学生の受験・採用状況の結果について報告するのが目的である。

2 参加学生（被調査者） 教育学部 4 年次生 22 名

3 研究結果(参加学生の受験・採用状況の結果)

次ページの通り、千葉県観察実習に参加した学生の教員採用試験合否状況を示す。参加人数は No.に示す通り 22 名であった。学籍番号は 2005 年度入学 1 名、2006 年度入学 21 名であった。所属は学校教育教員養成課程小学校が 17 名、障害児課程が 3 名、生涯学習課程が 2 名であった。出願 1 と出願 2 に受験先の 2 次試験合格状況を○と×で示す。

千葉県観察実習参加者 22 名中、教員採用試験に合格した者は 13 名おり、その合格率は約 59%であった。

千葉県観察実習参加者 22 名中、千葉県の教員採用試験を受験した者は 12 名おり、千葉県の受験率は約 55%であった。参加人数の約 1/2 が受験していた。

さらに千葉県の教員採用試験を受験した者の 12 名中、千葉県に合格した者は 9 名おり、千葉県合格率は約 75%であった。4 人に 3 人は合格していた。

今回、岩手県に合格している学生で、千葉に就職する者が 2 名おり、観察実習への参加を通して、千葉県への教員の魅力を、この 2 名は強く感じたようである。

千葉観察実習参加者の教員採用試験合否状況

No.	学籍番号	所属			出願1	出願1
1	31106・	学校・小	○	○	千葉県・小○	青森県・小○
2	31106・	学校・小	○	○	千葉県・小○	岩手県・小○
3	31106・	学校・小	○	○	千葉県・特支・小○	岩手県・小○
4	31306・	学校・障害児	○	○	千葉県・特支・小○	宮城県・小○
5	31306・	学校・障害児	○	○	千葉県・特支・小○	岩手県・特支○
6	31106・	学校・小	○	○	横浜市・小○	川崎市・小○
78	31106・	学校・小	○	○	千葉県・小○	岩手県・小○
7	31106・	学校・小	○	×	千葉県・小○	青森県・小×
9	31106・	学校・小	○		千葉県・小○	
10	31106・	学校・小	○		千葉県・小○	
11	31106・	学校・小	○		宮城県・小○	
12	31106・	学校・小	○		宮城県・仙台市・小○	
13	31106・	学校・小	○		岩手県・中(数学)○	
14	31106・	学校・小	×	×	千葉県×	宮城県・小×
15	31106・	学校・小	×	×	千葉県×	岩手県×
16	31105・	学校・小	×		千葉県×	
17	31106・	学校・小	×		青森県・特支×	
18	31105・	生涯	×		岩手県・高×	
19	31306・	学校・障害児	×		岩手県・特支×	
20	31105・	生涯	×		岩手県・中高×	
21	31106・	学校・小	×		青森県・中×	
22	31106・	学校・小	-		大学院進学	
		○の小計	13	7		

千葉県合格者数 9
 千葉県不合格者数 3
 千葉県合格率 75%

千葉県観察実習参加者の千葉県受験率 55%
 千葉県観察実習参加者の教員採用試験合格率 59%